青年学級研究会
◇向日町青年学級を公開して◇

青年学級研究会

乙訓郡内、各町村の青年学級関係者で組織されている「青年学級研究会」では、去る九日、向日町青年学級の主催で、研究会が開かれました。各町村教育長、青年学級主事、学級長、青年団代表者など約二十五名の出席を得て、熱心に研究討議されました。当日問題になった主な事項は、(1)青年団と青年学級の一体化について、(2)各町村での学級活動の在り方、(3)特定の優秀、研究などを与える方法について、(4)公民館を中軸とした文化活動についてなど、根本的な諸問題とともに、現状に即しての具体的な活動についての、話合いが行われました。困難な状況の中にあって、真けんにとりくんでいこうとする各町村の熱意が、夕刻までつきることのない討論になりました。

学級公開学習

午後七時半から学習講師のプログラムに移りました。音楽クラブ、生花クラブ、社会クラブの三学級の公開学習でした。この会には、各町村の青年学級から多数の参観者をむかえて、百名を越える盛況でした。学習を終って意見交換会に移り、学習を中心として、青年学級の在り方について話合われ、まことに有意義な研究会に終了することができました。

問題になった学習については、音楽クラブのコーラスが、大変水準の高いものであることは、よく練習されている日頃の熱心な成果であることはいうまでもありません。生花クラブも講師の指導のもとでした。男女の学級生が、楽しく明かるい雰囲気につつまれての、真けんな学習です。技術も、相当にすすんだものや、新しくはいってきた学級生もいりまじっての和やかな学習風景でした。

社会クラブは、初雅女学校と向日学級の二つの交歓学習の試みで、はじめての両学級の共同学習でしたが、「親子の意見の相違」をテーマにして、家庭における事柄を中心に率直な体験が語られ、青年の考えと両親の考えの相違について、どんな点の理解が必要なのか、それをどのようにして解決するか、主として青年の側の態度について具体的な話ができました。

話合い学習

このような問題は、短かい時間で解決していくものではないのです。だんだんと身近かな生活の問題や、世相に対する考えや批判、職業の向上など、収得と話題は青年の生活の今後の問題といってよいでしょう。新しい青年学級の学習内容として、近時「話合い学習」がとりあげられるようになったのは、生活と直結して、自身を高めていく、生活学習をめざしているからなのです。

困難を打開する青年各位の発展を期して、有意義な研究会並びに公開学習を終りました。

青年学級研究会

（向日町教育委員会事務局で）

教育相談室 ⑥
向日町教育委員会事務局

相談日……毎週月・水・金午後一時—五時
担当……野村社会教育指導主事

気のよわい子ども

気のよわい子ども——といっても、それはまたまた子どもの精神相談がありますので、一概にはいえないようです。がその多くの場合は、学校でもみんなの仲間いりすることをさける子ども、遊びなどはよくするがお話や発表などの積極力に乏しい子ども、お友達が少なくひとりがちな子ども、それなのに、独りでいるとままであったり、移り気でおちつきがなかったりする子どもなどがあげられます。

気のよわい子どもは、ひとに迷惑をかけることもなく、また手をやいて困るというわけでもないので、ともすれば、その事情を深かく理解してやることをしないままで、よく過ごされがちですが、実は子どもの精神発達の上で、このようなとくに「社会性のおくれている子ども」は精神的に問題行動をもっている場合が極めて多いものです。

気のよわい子どもの原因はもとより、一様ではありませんが、そのおもなものは、まず過保護からくるもので、かまい過ぎた子どもです。子どもが自分ですべき機会を奪って、何でもしてやるといった盲目的な愛情から、相手との心理的離乳がおくれた子どもです。

つぎに友達と遊ぶことの少なかった子どもで、ひとり子や末っ子、近所に遊び友達のない子どもなどによくみられます。子どもをとおして、もまれて育つことはとりわけ大切なことです。

第三には親のきしずが多く、子どもの自主性がみとめられないで育った子ども、つまり過干渉的のしつけに抑圧された子どもです。

第四には、精神未発達の幼稚性、身体の欠陥、虚弱などが原因となっている場合も上げられます。

ではどのようにして、はきはきした元気のある子ども、自分の主張ができる子どもに導いていけるでしょうか。それは——原因であると思われる、個々の事情を診断して、しつけの態度や環境の条件を改善していくことです。基本的には子どもの自主性と社会性を訓練していく工夫をすることです。気の弱い子どもは全く積極の可能な子どもですから適当な工夫をつくしていけば、積極のある積極性をとりもどせるものです。

婦人

問題を解決する『婦人学級』の歩み（その二）

伸びゆく婦人学級（その二）は、次第に問題解決への意欲をこめて、話合い学習を深めてきました。「追求と体験」がそれを解決してくれる動力なのです。茲に続いてその抄録をおくります。

親の立場と子の立場を考えよう
——Fグループの学習——

この頃の子どもは——ということがよくいわれます。それにはさまざまの観点から、子どもの言動や考えについていわれているようですが、このグループでは、(1)よく理由をいって反抗する、(2)ことばづかいがわるく礼儀ができない、(3)自分勝手な行動をする、といったことが問題となりました。ありのままの子どもの態度や行動が話合われ、いくつかのケースについては、とくにその原因などについてもとりあげられました。

もとより、子どもが自由に伸び伸びと行動し、自分の意見もはっきりと表現する自主性と社会性が培われてきたことは、うれしいこととして認めあわれました。

そこで問題点は、親と子の意見の対立について、どのように考えたらよいかということです。これについては、親がもっと子どもの考えや立場を理解してやることが必要だということに、お母様方の考えが集中されたことは、一歩進んだ大きな収穫でした。

子どもを叱責したり、注意したりする前に、もっと子どもの立場をみとめてやること、とくに感情を容認してやることが大切なことです。それをどのような態度やことばで親が子どもに対するかという、しつけの方法を考えてみようということへ発展してきたわけです。

親の神経や感情で、または習慣やめんつで、子どもをたからとみおろした態度が、子どもの反抗をかったり、自分勝手な方向へかり立てていることを考え、子どもの理解の仕方を学習していこうとする、お母様方の学習の目標がはっきりしてきました。これからのケースの研究が期待されます。

生活の中のむだを考えよう
——Gグループの学習——

私たちは生活の中にずいぶんとむだがあるように思う。それはどんなことだろうか、それをとり去るには、どんな方法があるだろうか——という、生活改善の要求が、このグループの問題なのです。

二回にわたって、ずいぶんといろいろな事例がとりあげられました。生活時間の工夫の仕方、各部の設計、家計のきりつめ方、必需での習慣などについて話合われました。

話はすすんで「交際の習慣にむだはないか」というテーマについて、近隣や親類間の虚礼、見栄がどんなに多いかとりあげてみると、ずいぶんむだをしていることが、だれにもひしひしといえるのです。たとえば贈物にしても、相手の立場と趣向を考えるとか、選択についてはもっと協調的でなければならないのです。いつまでも下駄や布地ではないはずです。まして形式的な虚飾や見栄からしたのでは、無意味というよりないでしょう。心のふれあう人間関係が育つような交際がのぞましいわけです。話合いは去年の実践問題にふれ、地域の風習改善にまですすめられました。

家庭の話いの場をもとう
—Hグループの学習—

家庭でどのように話合いの場がもたれているでしょうか。多くの家庭で、家内の話合いが行われるようになってきたことは、よろこばしいことです。ではどのような話合いが有益でしょうか。

主題は、話合いの持ち方、問題はどのような内容を選ぶか、また家庭場をどのように作っていくか、などについて、いろいろな工夫が話合われました。

問題については「家庭のしごとの計画についてよく話合っていく、子どもの学校の話や休日の過ごし方などについて話合う、社会の出来ごとについて話合う、持ち寄ったことや調べたことについて話合う」など、さまざまな体験と意見が交換されました。

話合いでは、その雰囲気をどのように気持よく、楽しいものにするか、意見の出しあいをどのようにうまくまとめていくか、の工夫が大切です。おやつと団らんをするおいしかったり、家族ゲームをとりいれて、楽しい遊びにしたり、だれかのなにかの記念の日の食卓をもたせたりなど、和やかな雰囲気を育てることが必要なことです。

父も母も、兄も子も、子どもも、このようなだんらんのひとときの中で、相談しあうことや注意してやることを、あまりをきめることや、さまざまの家庭の問題について話しあっていくことが、どのように、一家の円満と理解を深めていく基となることでしょうか。

とくに家庭の話合いの場が、子どもの教育の大切な機会であることを強調したいと思います。いつの場合も、親にいいかげんな態度がみられるのです。子どもの気持、おなじように、子どもにもいい分があるのです。子どもの立場になって聞いてやることが、子どもには特に必要なのです。親の気持をよく通じあうのが、こんな「話合いの場」が細かい役目を果たしてくれます。

お互の立場を（相手をいたわる）理解しあってこそ、自分の考えや態度をより高めていく自分ひとりでもことができるのです。家庭の話合いの場が、どんなに家庭教育の大切な問題であるかについて、興味と工夫をもたれた話合いでした。

青年

向日町青年団 連絡協議会の活動

連絡協議会の発足

向日町青年団では、去る三月、各部落をまとまりとした地域青年団を結成し、新しい組織をもった青年団活動として今後を注目されておりますが、今般さらに町内六青年団が互に連携していけるように、青年団活動の充実を図るために、「向日町青年団連絡協議会」を結成いたしました。今後、会員の教養を高めるという青年団本来の目標に立って「学習する」青年団、生活を深めてゆく「青年団の活動が、連絡協議会の推進をとおして、一層発展するものと期待されています。

青年学級の発展へ

連絡協議会が結成されて、まず熱意を示してとりあげたのは「青年学級」の充実改組という問題です。協議会の幹部代表が青年学級の運営委員として参加し、青年学級の学習行事が、青年団活動の部門としても、よく一体的なつながりをもつように深められてきました。今後は各地域での青年学級が、分級のような形をもって、それぞれ特色のあるグループ活動に発展していくことと思われます。

「話合う青年学級」の見学

最近、青年団の活動の中心として、青年学級の学習やクラブ活動に、関心が注がれるようになってきたことは、青年団が教養集団としての意識と、活動の充実に目をむけるという、ほんとうの活動の在り方に目的をおくようになった現われとみられます。協議会が率先して他地方の青年学級の実践について見学の計画を立て、研究しようとしているのは極めて有意義なことといえましょう。

団員の研修会開催

町教委でも団員の研修については、とくに力をいれており、協議会を支援して、新春を期して団員指導者の参加を得て「研修とリクレーションの会」をもつことにしています。青年団活動の新しい進め方、青年学級の在り方、とくに話合う共同学習の実践とともに、お互の親睦を図ろうというのです。

連絡協議会が「何を生みだそうとするか」今後、注目される活動です。移りゆく時代は、青年団の在り方に、大きな変革を要求しています。けれども問題は、青年が何を考えているか、という課題にあるといえましょう。

講座

一月の家庭教育講座
場所・教委員会事務局

一、題目「本の与え方とその導き方」

子どもにいつ、どのような本を与え、どのように導いたらよいでしょうか、幼稚園児から、小学校六年生までの発達段階に応じての、本の与え方と導き方について、また漫画の問題についても正しい解決をいたしましょう。本を見る、本を読む、よいしつけは、子どもの心の糧をどのように与えるか—という大切な問題なのです。

二、日時　一月十日（金）午後二時—四時

三、講師　京都市教育研究所　伊藤秀一氏

一、題目「子どもの叱り方とほめ方」

子どものしつけの上で「叱り方とほめ方」の問題は、子どもの心理にとって大変大きな作用をするものです。それは子どもの性格を導くといっても過言ではないでしょう。どのような場合、どうすればよいか、子どもを素直に明かるくするしつけの要領を事例中心に考えてみたいと思います。

二、日時　一月二十二日（水）午後二時—四時

三、講師　野村社会教育指導主事

教育相談の拡張
各部落へも出張相談

向日町教育相談所では、毎週三日（月、水、金）教育相談を開いておりますが、今般さらに相談の便利のために、毎週一回は、各部落を巡回して、出張相談所を開設することになりました。開所日は各区の事務所から通知されることになっています。

○子どものしつけや性格のことでどのようにすればよいか、心配していられる方はありませんか。

○学業が不振なので、どのように導いたらよいか、困っている方はありませんか。

○上級学校の進学や進路について、どうすればよいか、考えている方はありませんか。

○ちえおくれや性格異常の子どもに悩んでいられる方はありませんか。

○その他「子どもと家庭」の問題で御相談になりたい方はありませんか。

相談所では、こうした問題について科学的な診断と指導を行って、相談に応じています。せいぜい御利用になって下さい。

社会教育便り
・教委事務局・

◇家庭教育講座

毎月開かれている家庭教育講座も、回を重ねるにつれて、お母様方に「子どものしつけ」について深かい理解がもたれるようになりました。子どもの内面をよく知っておられるように、お母様方自身「育ての心」を勉強していくことが大切です。ゆっくり体験を話しあえるような親しい集いにすすめていきたいと思います。お話の会もふやすことにしました。何卒御参会をお待ちしています。

◇家庭図書の「閲覧」

教育相談所の、お母様向きの本が皆さんに利用されておりますが、今般婦人学級の図書を新しく購入いたしました。さっそくある方面では利用されて、よろこばれています。これも皆さんの御利用をいただくようお待ちいたします。

◇教育相談「各区」への出張

向日町教育相談所では、初回のように各区へ出かけての相談をすることになり、第一回を去る十二日、上植野事務所で開きました。交談者の皆さんに、よろこんでいただけて、大へん有意義な催しでした。

◇「青丘」の発刊

向日町青年学級では、今般学級誌「青丘」を発刊しました。学級生の体験や論説、随想など、青年の思いや意見が紙面にあふれています。青年たちが話合いやペンをとおして、生活を表現していくことは、意義の深いことと、学級活動を期待されています。

◇青年、婦人研修の集い

去る五日、青年と婦人の集りが光明寺で開かれました。自治会館完成十周年を記念して、教委事務局主催で開かれたものですが、青年と婦人が共通の広場に立って、地域の問題や生活改善について話し合いました。今後こうした話合いがさらに発展して、地域の新しい町づくりがすすめられるようになりたいものです。